

CLOSE UP

院長's Voice

パーリット・ウォンペート院長「タイで初となるDBCの技術を是非お試しください。メディカルスタッフ、トレーニングスタッフに加え日本人日本語通訳も常駐していますので、安心して治療に専念できます。」



山口さんの「本日のトレーニングメニュー」

バラエティー豊かな器具でトレーニング。



・山口さんは、腰・膝・首など複数個所に問題を抱えるため、そのトレーニングメニューは多岐に渡る。およそ8つの機器を用いながらトレーニングを行う。



・まずはバイクでペダルを踏んで軽くウォーミングアップ開始。その後、腹筋・背筋などを器具で鍛えながら、その都度、ストレッチをトレーナーと入念に行う。

・「①Lumbar Thoracic Lateral Flexion」は腰のサイドを鍛える。腰を固定した状態で負荷をかけ、腰を振り子のように動かす。

腰を重点的に鍛えたあと、今度は、首背中を鍛え上げてゆく。「②Cervical 3D Rotation」では、首・肩の横に動かすトレーニング。ヘルメットのようなものを被り首を固定し左右に動かす。

そしてそれが終わると、今度は屈伸運動をして足腰を鍛える番。「③Horizontal Leg Press」は足元の盤を押し、足に負荷をかける。

・そうした一連のメニューを無事終えた山口さんが次に向うのが「アクアマッサージスバ」。カプセル型のベットをすっぽり被り、水圧で全身をマッサージする。お疲れ様でした。



肩・腰など関節の痛みによく評判の治療法「DBC」。

そんな福祉大国フィンランドからやってきた画期的な治療法が、タイで初上陸したのが、ここ「DBC Thailand」。今回はそんな話題の施設で、治療をする日本人「山口さん」にお話を伺った。

「DBCを始めたきっかけはなんで
すか？」

山口さん：もともと日本で仕事をしていた頃、仕事で重いものを持ったり、無理な姿勢をとったりするのがたまたま、約10年ほど前から腰を痛めてしまいました。

それから膝など複数の個所にも痛みを覚えましたが、それでも痛みと付き合いながら騙し騙し仕事を続けて来ました。

病院などにも通い3年前から薬を

飲み始めました。

それで痛みをこらえていたのですが、ある日車を運転していると、足が突然動かなくなつてアクセルが踏めなくなつてしまいました。それから自分でも「やばいなあ」と思っていて、何か根本的な解決を求めているときにDBCに出会ったんです。「フィンランドの技術」というものに大変興味を覚えまして、その時はまさに自分が求めているものに出会えたと思えました。

「実際に治療を始めたのはいつですか？」

山口さん：4月から通い始めて、今で大体2ヶ月くらいになります。実は今日がちょうど10回目になります。

「治療を続けてこられた感想は？」

山口さん：今ちょっとずつ身体が軽くなっているのを実感出来るようになりました。今まで感じていた「しんどさ」が少しずつ解消されてきた感じがします。

それでも、10年かけて悪化した腰の状態がそんなに早く良くなるとは思っていません。でも治療を受けた80%の人々がその治療が効果的だったと、認めているなら、自分も改善できるのではないかと大いに期待しています。

それにここなら医師が常駐し診断しながら、トレーニングできるので安心感が違います。医師が居なかつたら気持ちにはやって無理してしまふなんてこともあるんでしょうが、「コツコツやりましょう」という医師の言葉を信じてあと20回くらいは通つてみようかなと思っています。

(完)

フィンランドからやって来た新技術で腰、首など関節の痛みを治療する。

その治療の真相に迫る、インタビュー。Vol.1

「フィンランドからやって来た最新技術」といわれてもちょっとピンとこないかもしれない。指針が変わってDBCで実際に治療にあたる日本人の方にお話を伺ってきました。

